

|              |   |
|--------------|---|
| 年度           | 2025  |
| 講義名          | 社会福祉発達史   |
| 担当教員         | 野口 友紀子  |
| 開講期・曜日・時限・教室 | 4 学期 水曜日 5 時限 武蔵野 1 1 0 2<br>4 学期 水曜日 6 時限 武蔵野 1 1 0 2  |
| 開講キャンパス      | 武蔵野   |
| 開講学年         | 1 年生  |
| 単位数          | 2   |
| 授業の方法        | 講義  |
| 授業の実施形態      | 対面（オンライン併用。対面実施回が半数以上）／Face-to-Face (combined with Online: 50% or more of the classes are Face-to-Face) |
| 使用言語         | 日本語   |

|      |  |
|------|--|
| 授業概要 | この授業の目的は「社会福祉とは何か」を歴史を通して学ぶことです。今回は「まなざし」という視点で、明治期から第二次世界大戦前までの主に日本の「福祉っぽいもの」の歴史をたどります。講義に加えて、受講生にも参加してもらいながら授業を進めます。これまで社会福祉の歴史のテキストを手にとって、難しそう、分かりにくい、つらいと感じていた人におすすめの授業です。この講義では、社会福祉という実践的な学問に歴史研究が必要であると感じてもらうことを最終的な到達目標としています。 |
|------|--|

|               |                                       |
|---------------|---------------------------------------|
| 知識・専門性の到達目標   | 日本と先進国を中心とした海外の社会福祉の発達史を理解する。【教養・基礎力】 |
| 関心・態度・人格の到達目標 |                                       |
| 思考力・判断力の到達目標  |                                       |
| 交感力・発信力の到達目標  |                                       |

|                 |   |
|-----------------|---|
| 「響学スパイラル」取り組み方法 | 問う：現在の社会福祉の形成過程に関心を寄せる。<br>考動する：講義やテキストで学んだことを深めるために文献にあたる。<br>カタチにする：特に関心のある領域を深く掘り下げ、レポートを作成する。<br>見つめ直す：レポートを踏まえて、十分に掘り下げられなかったところを補足する。 |
|-----------------|---|

|                    |  |   |    |
|--------------------|--|---|----|
| 授業における「アクティブな知」の要素 | 授業手法                                     |   | 対象 |
|                    | A: 課題解決型学習 (PBL) 企業、自治体等との連携あり           |   | -  |
|                    | B: 課題解決型学習 (PBL) 連携なし                    |   | -  |
|                    | C: 反転授業 (知識習得を授業外で行い、知識確認等の要素を教室で行う授業形態) |   | -  |
|                    | D: 討議 (ディスカッション、ディベート等)                  |   | -  |
|                    | E: グループワーク                               |   | -  |
|                    | F: 発表 (プレゼンテーション)                        |   | ○  |
|                    | G: 実習、フィールドワーク                           |   | -  |
|                    | H: 双方向授業 (ICT活用なし: 対話型、リアクションペーパー等)      |   | ○  |
|                    | I: 双方向授業 (ICT活用あり: クリッカー、タブレット、スマートフォン等) |   | ○  |
|                    | J: 講義のみ                                  |   | -  |
| K: その他             |  | - |    |

|                    |   |  |    |
|--------------------|---|--|----|
| 授業における「ICTの活用」について | 活用形態  |  | 対象 |
|                    | A: ノートPC必携  |  | ○  |
|                    | B: 講義資料や授業教材のオンライン配信  |  | ○  |
|                    | C: レポート課題等のオンライン提出  |  | ○  |
|                    | D: 質問やレポート課題等へのフィードバックにおける学修管理システムの活用 (学修支援システム (Course Power)、Google Classroom、Teams等) |  | ○  |
|                    | E: オンラインメディアの活用 (e-Learning、edX、Coursera、JMOOC等のOpen Educational Resources)             |  | -  |
|                    | F: Zoom、Google Meet等のミーティングツールの活用   |  | ○  |
|                    | G: その他  |  | -  |

\* 「Open Educational Resources」とは教育に関する資料であり、誰でも自由に使用することができるものを指す用語

|           |         |                  |
|-----------|---------|------------------|
| 予習 (事前学修) | 各授業     | 事前に提示したことをやってくる。 |
|           | [ 平均 ]分 |                  |

|           |         |                  |
|-----------|---------|------------------|
| 復習 (事後学修) | 各授業     | 講義内容全体を復習しておくこと。 |
|           | [ 平均 ]分 |                  |

| 評価項目        | 評価項目の詳細内容 | 割合   |
|-------------|-----------|------|
| 課題提出 (レポート) | まとめレポート   | 50 % |

|      |                          |     |
|------|--------------------------|-----|
| 成績評価 | 小テスト                     | 0%  |
|      | 試験                       | 0%  |
|      | 実習・学外学修活動                | 0%  |
|      | その他                      | 50% |
|      | 発表会での発表、発表内容、発表時のスライドの提出 |     |

| 授業回 | 内容  |
|-----|---|
| 1.  | <p>イントロダクション<br/>           授業概要、授業計画、授業評価の説明。<br/>           テーマ:「まなざし」の変化からみる歴史とは?<br/>           予習:テキストの目次に目を通しておくこと。<br/>           復習:講義内容全体を復習しておくこと。(2時間)</p>                                       |
| 2.  | <p>日本の社会福祉の歴史1<br/>           テーマ:自助へのまなざし・下層社会へのまなざし<br/>           予習:テキストを読んでおくこと。わからない用語は事前に調べること。(2時間)<br/>           復習:関連図書を探し、読んでおくこと。(2時間)</p>   |
| 3.  | <p>日本の社会福祉の歴史2<br/>           テーマ:普通の貧困者の発見・工場で働く人びとへのまなざし・感化の再編<br/>           予習:次回取り上げる時代について、調べておくこと。(2時間)<br/>           復習:講義内容全体を復習しておくこと。関連図書を探し、読んでおくこと。(2時間)</p>                                  |
| 4.  | <p>日本の社会福祉の歴史3<br/>           テーマ:・貧困調査というまなざし・防貧対策の実施<br/>           予習:テキストを読んでおくこと。わからない用語は事前に調べること。(2時間)<br/>           復習:講義内容全体を復習しておくこと。関連図書を探し、読んでおくこと。(2時間)</p>                                    |
| 5.  | <p>日本の社会福祉の歴史4<br/>           テーマ:農村へのまなざし・戦時体制下でのまなざし<br/>           予習:次回取り上げる時代について、調べておくこと。(2時間)<br/>           復習:講義内容全体を復習しておくこと。関連図書を探し、読んでおくこと。(2時間)</p>  |
| 6.  | <p>日本の社会福祉の歴史5<br/>           テーマ:戦時期の対策・戦後の取り組み<br/>           予習:テキストを読んでおくこと。わからない用語は事前に調べること。(2時間)<br/>           復習:講義内容全体を復習しておくこと。関連図書を探し、読んでおくこと。(2時間)</p>  |
| 7.  | <p>非常事態の社会福祉の歴史1<br/>           テーマ:騒擾、自然災害<br/>           予習:テキストを読んでおくこと。わからない用語は事前に調べること。(2時間)<br/>           復習:講義内容全体を復習しておくこと。関連図書を探し、読んでおくこと。(2時間)</p>   |
| 8.  | <p>非常事態の社会福祉の歴史2<br/>           テーマ:戦争、疫病<br/>           予習:テキストを読んでおくこと。わからない用語は事前に調べること。(2時間)<br/>           復習:講義内容全体を復習しておくこと。関連図書を探し、読んでおくこと。(2時間)</p>   |
| 9.  | <p>イギリスの社会福祉の歴史<br/>           テーマ:17世紀以降のイギリスの社会福祉の歴史。<br/>           予習:テキストを読んでおくこと。わからない用語は事前に調べること。(2時間)<br/>           復習:講義内容全体を復習しておくこと。関連図書を探し、読んでおくこと。(2時間)<br/>           次週のスライドを作成し提出すること。</p> |
| 10. | <p>ドイツの社会保障の歴史<br/>           テーマ:19世紀の社会保険制度の形成。<br/>           予習:テキストを読んでおくこと。わからない用語は事前に調べること。(2時間)<br/>           復習:講義内容全体を復習しておくこと。関連図書を探し、読んでおくこと。(2時間)<br/>           次週のスライドを作成し提出すること。</p>       |
| 11. | <p>発表会1<br/>           スライドを作成し、発表する。</p>   |
| 12. | <p>発表会2<br/>           スライドを作成し、発表する。</p>   |

|  |     |  |
|--|-----|--|
|  | 13. | この授業のまとめ<br>テーマ: 明治期から第二次世界大戦後の日本の社会福祉の形成過程<br>予習: これまで学んだことを振り返っておくこと。(2時間)<br>復習: まとめレポートを書く準備をすること。(2時間)                  |
|  | 14. | この授業のまとめ<br>テーマ: 明治期から第二次世界大戦後の日本の社会福祉の形成過程<br>予習: この授業で学んだことを各自で学習しておく。(2時間)<br>復習: まとめレポートを書く準備をすること。講義内容全体を復習しておくこと。(2時間) |

|      |  |
|------|--|
| 留意事項 |  |
|------|--|

|               |                            |                            |                             |
|---------------|----------------------------|----------------------------|-----------------------------|
| 教科書<br>(購入必要) | 1.                         | 書籍名                        | 社会福祉のあゆみ                    |
|               |                            | 著者                         | 金子光一                        |
|               |                            | 出版社                        | 有斐閣 ISBN(13桁) 9784641122703 |
|               |                            | その他、教科書に関する履修学生への連絡事項(非公開) |                             |
|               |                            | 紀伊國屋書店への連絡事項(非公開)          |                             |
|               | 2.                         | 書籍名                        |                             |
|               |                            | 著者                         |                             |
|               |                            | 出版社                        | ISBN(13桁)                   |
|               |                            | その他、教科書に関する履修学生への連絡事項(非公開) |                             |
|               |                            | 紀伊國屋書店への連絡事項(非公開)          |                             |
|               | 3.                         | 書籍名                        |                             |
|               |                            | 著者                         |                             |
|               |                            | 出版社                        | ISBN(13桁)                   |
|               |                            | その他、教科書に関する履修学生への連絡事項(非公開) |                             |
|               |                            | 紀伊國屋書店への連絡事項(非公開)          |                             |
|               | 4.                         | 書籍名                        |                             |
|               |                            | 著者                         |                             |
|               |                            | 出版社                        | ISBN(13桁)                   |
|               |                            | その他、教科書に関する履修学生への連絡事項(非公開) |                             |
|               |                            | 紀伊國屋書店への連絡事項(非公開)          |                             |
| 5.            | 書籍名                        |                            |                             |
|               | 著者                         |                            |                             |
|               | 出版社                        | ISBN(13桁)                  |                             |
|               | その他、教科書に関する履修学生への連絡事項(非公開) |                            |                             |
|               | 紀伊國屋書店への連絡事項(非公開)          |                            |                             |

|                |    |                    |                             |
|----------------|----|--------------------|-----------------------------|
| 参考図書<br>(任意購入) | 1. | 書籍名                | 社会福祉発達史キーワード                |
|                |    | 著者                 | 古川孝順・金子光一                   |
|                |    | 出版社                | 有斐閣 ISBN(13桁) 9784641058897 |
|                |    | 参考図書に関する履修学生への連絡事項 |                             |
|                |    | 書籍名                |                             |
|                | 2. | 書籍名                |                             |
|                |    | 著者                 |                             |
|                |    | 出版社                | ISBN(13桁)                   |
|                |    | 参考図書に関する履修学生への連絡事項 |                             |
|                |    | 書籍名                |                             |
|                | 3. | 書籍名                |                             |
|                |    | 著者                 |                             |
|                |    | 出版社                | ISBN(13桁)                   |
|                |    | 参考図書に関する履修学生への連絡事項 |                             |
|                |    | 書籍名                |                             |
|                | 4. | 書籍名                |                             |
|                |    | 著者                 |                             |
|                |    | 出版社                | ISBN(13桁)                   |
|                |    | 参考図書に関する履修学生への連絡事項 |                             |
|                |    | 書籍名                |                             |

|  |    |                  |           |
|--|----|------------------|-----------|
|  | 1. | 図書名              |           |
|  |    | 著者               |           |
|  | 5. | 出版社              | ISBN(13桁) |
|  |    | 参考文献に関する履修学生への通知 |           |
|  |    |                  |           |

|                       |    |                   |  |
|-----------------------|----|-------------------|--|
| その他<br>(配布教材等により購入不要) | 1. | 配布教材等に関する履修学生への通知 |  |
|                       | 2. | に関する履修学生への通知      |  |
|                       | 3. | に関する履修学生への通知      |  |
|                       | 4. | に関する履修学生への通知      |  |
|                       | 5. | に関する履修学生への通知      |  |

|       |    |         |  |
|-------|----|---------|--|
| 参考URL | 1. | webサイト名 |  |
|       |    | URL     |  |
|       | 2. | webサイト名 |  |
|       |    | URL     |  |
|       | 3. | webサイト名 |  |
|       |    | URL     |  |
|       | 4. | webサイト名 |  |
|       |    | URL     |  |
|       | 5. | webサイト名 |  |
|       |    | URL     |  |

| 実践的教育を行う授業科目の種別  |  | 対象 |
|--|--|----|
| a. 実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目<br>担当教員の实務経験(経歴・資格等)          |  | -  |
| 授業内容との関連性  |  |    |
| b. 企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目<br>学外講師の経歴・資格等       |  | -  |
| 授業内容との関連性  |  |    |
| c. 企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目<br>実習先・実習の目的 |  | -  |

Teamsによる授業連絡、レジュメ提出、資料配信、学生間交流。

備考

|              |   |
|--------------|---|
| 年度           | 2025  |
| 講義名          | 犯罪・非行心理学  |
| 担当教員         | 大江 由香   |
| 開講期・曜日・時限・教室 | 4 学期 金曜日 5 時限 武蔵野 1 1 0 1<br>4 学期 金曜日 6 時限 武蔵野 1 1 0 1  |
| 開講キャンパス      | 武蔵野   |
| 開講学年         | 3 年生  |
| 単位数          | 2   |
| 授業の方法        | 講義  |
| 授業の実施形態      | 対面（オンライン併用。対面実施回が半数以上）／Face-to-Face (combined with Online: 50% or more of the classes are Face-to-Face) |
| 使用言語         | 日本語   |

|      |   |
|------|---|
| 授業概要 | 果たして私達は、犯罪者や非行少年を正しく理解できているのだろうか。本講では、犯罪心理学の基礎を学び、犯罪・非行を多角的な視点から捉えながら、偏見のない眼差しで犯罪者や非行少年を理解する訓練を行うとともに、その立ち直りに向けた効果的な支援方法について議論する。 |
|------|---|

|               |   |
|---------------|---|
| 知識・専門性の到達目標   | 犯罪・非行心理学に関する理論や支援方法を理解し、ソーシャルワーカーとして必要な犯罪・非行心理学の実践的知識を他者に説明できる。【専門性】  |
| 関心・態度・人格の到達目標 | 子どもをめぐる生物学的、心理学的、社会学的要因を多角的かつ包括的視点から犯罪・非行を捉え、その心理学的意味と非行少年の心理特性を学び、非行少年の立ち直りへの共感的理解に基づいた支援について検討できる。【他者理解力】 |
| 思考力・判断力の到達目標  |   |
| 交感力・発信力の到達目標  |   |

|                 |  |
|-----------------|--|
| 「響学スパイラル」取り組み方法 | 本講では、自分自身の色眼鏡を理解すること、他者の考え方を知ることを基本に、犯罪や非行について自ら考え、多角的な視点を踏まえながら筋道を立てて分析し、言葉で表現することを通して、響学スパイラルを実現します。 |
|-----------------|--|

| 授業における「アクティブな知」の要素 | 授業手法                                      |  | 対象 |
|--------------------|---|--|----|
|                    | A: 課題解決型学習 (PBL) 企業、自治体等との連携あり            |  |    |
|                    | B: 課題解決型学習 (PBL) 連携なし                     |  | ○  |
|                    | C: 反転授業 (知識習得を授業外で行い、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)  |  | ○  |
|                    | D: 討議 (ディスカッション、ディベート等)                   |  |    |
|                    | E: グループワーク                                |  |    |
|                    | F: 発表 (プレゼンテーション)                         |  |    |
|                    | G: 実習、フィールドワーク                            |  |    |
|                    | H: 双方向授業 (ICT 活用なし: 対話型、リアクションペーパー等)      |  | ○  |
|                    | I: 双方向授業 (ICT 活用あり: クリッカー、タブレット、スマートフォン等) |  | ○  |
|                    | J: 講義のみ                                   |  |    |
|                    | K: その他                                    |  |    |

| 授業における「ICTの活用」について | 活用形態   |  | 対象 |
|--------------------|--|--|----|
|                    | A: ノートPC必携   |  | ○  |
|                    | B: 講義資料や授業教材のオンライン配信   |  | ○  |
|                    | C: レポート課題等のオンライン提出   |  | ○  |
|                    | D: 質問やレポート課題等へのフィードバックにおける学修管理システムの活用 (学修支援システム (Course Power)、Google Classroom、Teams 等) |  |    |
|                    | E: オンラインメディアの活用 (e-Learning、edX、Coursera、JMOOC 等の Open Educational Resources)            |  | ○  |
|                    | F: Zoom、Google Meet 等のミーティングツールの活用   |  |    |
|                    | G: その他   |  |    |

・「Open Educational Resources」とは教育に関する資料であり、誰でも自由に使用することができるものを指す用語

|           |           |   |
|-----------|-----------|---|
| 予習 (事前学修) | 各授業       | テキストの授業内容に対応する章を読んでおく。犯罪・非行に関する報道や統計資料を調べる。 |
|           | [ 120 ] 分 |   |

|           |           |  |
|-----------|-----------|--|
| 復習 (事後学修) | 各授業       | 授業で取り上げた内容について復習し、知識を定着させるために、ミニレポートを作成する。 |
|           | [ 120 ] 分 |  |

| 評価項目        | 評価項目の詳細内容            | 割合   |
|-------------|----------------------|------|
| 課題提出 (レポート) | 毎回授業終了時にミニレポートを提出する。 | 70 % |

|      |           |                   |     |
|------|-----------|-------------------|-----|
| 成績評価 | 小テスト      |                   | 0%  |
|      | 試験        | 試験に代わってレポートを提出する。 | 30% |
|      | 実習・学外学修活動 |                   | 0%  |
|      | その他       |                   | 0%  |
|      |           |                   |     |

| 授業回 | 内容   |
|-----|--|
| 1.  | [タイトル] オリエンテーションーなぜ犯罪・非行心理学を学ぶのか？<br>[予習(120分)] 自分が犯罪・非行心理学をなぜ学ぶのかを考えておく。<br>[復習(120分)] 授業のワークの意味と自分の先入観・偏見について考察する。<br>[課題] 授業で学んだこと及び授業の感想をまとめたミニレポートの作成・提出<br>[実施形態] 対面(オンラインに変更する場合は別途指示)  |
| 2.  | [タイトル] 犯罪とは何か？非行とは何か？<br>[予習(120分)] 違法と合法の境界線は何か、自分なりに考えておく。<br>[復習(120分)] 授業で取り上げた犯罪・非行の定義と刑事司法の手続きについて復習し、知識を定着させる。<br>[課題] 授業で学んだこと及び授業の感想をまとめたミニレポートの作成・提出<br>[実施形態] 対面(オンラインに変更する場合は別途指示)   |
| 3.  | [タイトル] 犯罪・非行は個人の問題？-生物学的、心理学的な理論と代表的な個別的要因(知能、サイコパシーなどの人格)<br>[予習(120分)] 犯罪・非行に関する報道を調べ、メディアが犯罪・非行の原因を何に帰属させることが多いのかを知る。<br>[復習(120分)] 授業で取り上げた生物学的、心理学的な理論と個別的要因について振り返り、知識を定着させる。<br>[課題] 授業で学んだこと及び授業の感想をまとめたミニレポートの作成・提出<br>[実施形態] 対面(オンラインに変更する場合は別途指示) |
| 4.  | [タイトル] 犯罪・非行の個別的要因(発達障害、精神障害)と責任能力<br>[予習(120分)] テキストを読んでおく。<br>[復習(120分)] 授業で取り上げた個別的要因について振り返り、知識を定着させる。<br>[課題] 授業で学んだこと及び授業の感想をまとめたミニレポートの作成・提出<br>[実施形態] 対面(オンラインに変更する場合は別途指示)  |
| 5.  | [タイトル] 犯罪・非行は環境の問題？-社会学的理論<br>[予習(120分)] テキストを読んでおく。<br>[復習(120分)] 授業で取り上げた社会学的な理論について振り返り、知識を定着させる。<br>[課題] 授業で学んだこと及び授業の感想をまとめたミニレポートの作成・提出<br>[実施形態] 対面(オンラインに変更する場合は別途指示)  |
| 6.  | [タイトル] 犯罪・非行の環境要因(家族)<br>[予習(120分)] テキストを読んでおく。<br>[復習(120分)] 家族に対する介入方法について調べ、ノートにまとめる。<br>[課題] 授業で学んだこと及び授業の感想をまとめたミニレポートの作成・提出<br>[実施形態] 対面(オンラインに変更する場合は別途指示)  |
| 7.  | [タイトル] 犯罪・非行の環境要因(虐待、いじめなどの被害体験)<br>[予習(120分)] 虐待が子どもに与える影響について調べる。<br>[復習(120分)] 子ども虐待の現状について調べる。<br>[課題] 授業で学んだこと及び授業の感想をまとめたミニレポートの作成・提出<br>[実施形態] 対面(オンラインに変更する場合は別途指示)  |
| 8.  | [タイトル] 犯罪・非行の環境要因とバイオ・サイコ・ソーシャルモデル<br>[予習(120分)] テキストを読んでおく。<br>[復習(120分)] 授業で取り上げた環境要因とバイオ・サイコ・ソーシャルモデルについて振り返り、知識を定着させる。<br>[課題] 授業で学んだこと及び授業の感想をまとめたミニレポートの作成・提出<br>[実施形態] 対面(オンラインに変更する場合は別途指示)  |
| 9.  | [タイトル] 非行少年は「小さな犯罪者」か？-非行と発達段階<br>[予習(120分)] 少年法の改正について調べ、非行少年の厳罰化に対する自分の意見をまとめておく。<br>[復習(120分)] 授業で取り上げた社会心理学的未熟さが非行に与える影響について振り返り、知識を定着させる。<br>[課題] 授業で学んだこと及び授業の感想をまとめたミニレポートの作成・提出<br>[実施形態] 対面(オンラインに変更する場合は別途指示)                                      |
| 10. | [タイトル] 様々な犯罪・非行の心理-殺人、暴力<br>[予習(120分)] テキストを読んでおく。<br>[復習(120分)] 授業で学んだ殺人犯や暴力犯の心理に関する知識を使って、報道された事件を分析してみる。<br>[課題] 授業で学んだこと及び授業の感想をまとめたミニレポートの作成・提出<br>[実施形態] 対面(オンラインに変更する場合は別途指示)   |
| 11. | [タイトル] 様々な犯罪・非行の心理-放火、性犯罪<br>[予習(120分)] テキストを読んでおく。<br>[復習(120分)] 授業で学んだ放火犯、性犯の心理に関する知識を使って、報道された事件を分析してみる。<br>[課題] 授業で学んだこと及び授業の感想をまとめたミニレポートの作成・提出<br>[実施形態] 対面(オンラインに変更する場合は別途指示)   |
| 12. | [タイトル] 様々な犯罪・非行の心理-薬物乱用、窃盗<br>[予習(120分)] テキストを読んでおく。<br>[復習(120分)] 授業で学んだ薬物犯、窃盗犯の心理に関する知識を使って、報道された殺人事件を分析してみる。<br>[課題] 授業で学んだこと及び授業の感想をまとめたミニレポートの作成・提出<br>[実施形態] 対面(オンラインに変更する場合は別途指示)   |

授業計画

|     |   |                             |
|-----|---|-----------------------------|
|     |   | 【実施形態】対面(オンラインに変更する場合は別途指示) |
| 13. | <p>【タイトル】 犯罪者処遇の動向ー犯罪者処遇理論・福祉との連携</p> <p>【予習(120分)] 監獄法から改正された犯罪者処遇法について調べる。</p> <p>【復習(120分)] 犯罪者・非行少年の立ち直りに福祉がどのように貢献できるかについて考察し、自分なりの意見をまとめる。</p> <p>【課題] 授業で学んだこと及び授業の感想をまとめたミニレポートの作成・提出</p> <p>【実施形態] 対面(オンラインに変更する場合は別途指示)</p> |                             |
| 14. | <p>【タイトル】 被害者のケアと犯罪者・非行少年の更生の両立は可能か?</p> <p>【予習(120分)] テキストを読んでおく。</p> <p>【復習(120分)] 被害者の心理について復習する。被害者のケアと犯罪者・非行少年の更生の両立可能性について整理する。</p> <p>【課題] 授業で学んだこと及び授業の感想をまとめたミニレポートの作成・提出</p> <p>【実施形態] 対面(オンラインに変更する場合は別途指示)</p>            |                             |

**留意事項**

授業には、報道されている実際の事例を使って心理分析等を行う内容や、家庭環境などについて考える内容が含まれます。中には前述した内容に触れることをつらく感じる人もいられるため、困難がある方は講師にご相談ください。なるべく精神的負荷がかからない形で受講できるよう配慮します。

|                      |    |  |
|----------------------|----|--|
| <b>教科書</b><br>(購入必要) | 1. | <p>書籍名 『司法・犯罪心理学(ライブラリ心理学の杜 15)』</p> <p>著者 森文弓, 荒井崇史, 嶋田美和, 大江由香, 杉浦希, 角田亮</p> <p>出版社 サイエンス社 ISBN(13桁) 978-4781915074</p> <p>その他、教科書に関する履修学生への連絡事項 犯罪心理学についてより詳細に学びたい学生向けのテキスト。司法犯罪領域の法律や制度、処遇などがよく分かる。</p> <p>紀伊國屋書店への連絡事項(非公開)</p> |
|                      | 2. | <p>書籍名</p> <p>著者</p> <p>出版社 ISBN(13桁)</p> <p>その他、教科書に関する履修学生への連絡事項(非公開)</p>  |
|                      | 3. | <p>書籍名</p> <p>著者</p> <p>出版社 ISBN(13桁)</p> <p>その他、教科書に関する履修学生への連絡事項(非公開)</p>  |
|                      | 4. | <p>書籍名</p> <p>著者</p> <p>出版社 ISBN(13桁)</p> <p>その他、教科書に関する履修学生への連絡事項(非公開)</p>  |
|                      | 5. | <p>書籍名</p> <p>著者</p> <p>出版社 ISBN(13桁)</p> <p>その他、教科書に関する履修学生への連絡事項(非公開)</p>  |
|                      |    | <p>書籍名</p> <p>著者</p> <p>出版社</p> <p>その他、教科書に関する履修学生への連絡事項(非公開)</p>  |
|                      |    | <p>書籍名</p> <p>著者</p> <p>出版社</p> <p>その他、教科書に関する履修学生への連絡事項(非公開)</p>  |
|                      |    | <p>書籍名</p> <p>著者</p> <p>出版社</p> <p>その他、教科書に関する履修学生への連絡事項(非公開)</p>  |
|                      |    | <p>書籍名</p> <p>著者</p> <p>出版社</p> <p>その他、教科書に関する履修学生への連絡事項(非公開)</p>  |
|                      |    | <p>書籍名</p> <p>著者</p> <p>出版社</p> <p>その他、教科書に関する履修学生への連絡事項(非公開)</p>  |

|                       |    |  |
|-----------------------|----|--|
| <b>参考図書</b><br>(任意購入) | 1. | <p>書籍名 『現代社会とメンタルヘルス』</p> <p>著者 中谷陽二, 斎藤環, 森田展彰, 小西聖子編著</p> <p>出版社 星和書店 ISBN(13桁) 978-4791110636</p> <p>参考図書に関する履修学生への連絡事項 犯罪を含む様々な社会問題について、各領域の専門家が社会からの排除・包摂という視点で執筆している。幅広い知識や視点を手に入れたい人にお勧めする。</p> |
|                       | 2. | <p>書籍名</p> <p>著者</p> <p>出版社 ISBN(13桁)</p> <p>参考図書に関する履修学生への連絡事項</p>  |
|                       | 3. | <p>書籍名</p> <p>著者</p> <p>出版社 ISBN(13桁)</p> <p>参考図書に関する履修学生への連絡事項</p>  |
|                       |    | <p>書籍名</p> <p>著者</p> <p>出版社</p> <p>参考図書に関する履修学生への連絡事項</p>  |
|                       |    | <p>書籍名</p> <p>著者</p> <p>出版社</p> <p>参考図書に関する履修学生への連絡事項</p>  |



|  | 4. 出版社<br><small>参考図書に関する履修学生への通</small><br>書籍名<br>著者<br>5. 出版社<br><small>参考図書に関する履修学生への通</small>   | ISBN(13桁)<br><br>ISBN(13桁) |    |  |   |   |  |   |  |           |  |   |  |
|--|---|----------------------------|----|--|---|---|--|---|--|-----------|--|---|--|
| その他<br><small>(配布教材等により購入不要)</small>   | 1. 配布教材等に関する履修学生への通<br>2. 配布教材等に関する履修学生への通<br>3. 配布教材等に関する履修学生への通<br>4. 配布教材等に関する履修学生への通<br>5. 配布教材等に関する履修学生への通   |                            |    |  |   |   |  |   |  |           |  |   |  |
| 参考URL  | 1. webサイト名<br>URL<br><small>参考URLに関する履修学生への通</small><br>2. webサイト名<br>URL<br><small>参考URLに関する履修学生への通</small><br>3. webサイト名<br>URL<br><small>参考URLに関する履修学生への通</small><br>4. webサイト名<br>URL<br><small>参考URLに関する履修学生への通</small><br>5. webサイト名<br>URL<br><small>参考URLに関する履修学生への通</small>  |                            |    |  |   |   |  |   |  |           |  |   |  |
| 実務経験のある教員等による授業科目<br><small>(実践的教育を行う授業科目)</small>   | <table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="300 1151 1390 1218">実践的教育を行う授業科目の種別</th> <th data-bbox="1394 1151 1513 1218">対象</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="300 1225 1390 1397">           a. 実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目<br/> <small>担当教員の実務経験(経歴・資格等)</small><br/>           2005年から現在まで刑務所や少年鑑別所などの矯正施設の心理技官等として、調査、指導、研究業務などに携わっている。公認心理師。臨床心理士。博士(学術)。         </td> <td data-bbox="1394 1225 1513 1397">○</td> </tr> <tr> <td colspan="2" data-bbox="300 1404 1513 1541">           授業内容との関連性<br/>           犯罪及び非行臨床において、犯罪心理学を日々実践している。         </td> </tr> <tr> <td data-bbox="300 1547 1390 1720">           b. 企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目<br/> <small>学外講師の経歴・資格等</small> </td> <td data-bbox="1394 1547 1513 1720"></td> </tr> <tr> <td colspan="2" data-bbox="300 1727 1513 1863">           授業内容との関連性         </td> </tr> <tr> <td data-bbox="300 1870 1390 2042">           c. 企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目<br/> <small>実習先・実習の目的</small> </td> <td data-bbox="1394 1870 1513 2042"></td> </tr> </tbody> </table> | 実践的教育を行う授業科目の種別            | 対象 | a. 実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目<br><small>担当教員の実務経験(経歴・資格等)</small><br>2005年から現在まで刑務所や少年鑑別所などの矯正施設の心理技官等として、調査、指導、研究業務などに携わっている。公認心理師。臨床心理士。博士(学術)。 | ○ | 授業内容との関連性<br>犯罪及び非行臨床において、犯罪心理学を日々実践している。 |  | b. 企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目<br><small>学外講師の経歴・資格等</small> |  | 授業内容との関連性 |  | c. 企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目<br><small>実習先・実習の目的</small> |  |
| 実践的教育を行う授業科目の種別  | 対象  |                            |    |  |   |   |  |   |  |           |  |   |  |
| a. 実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目<br><small>担当教員の実務経験(経歴・資格等)</small><br>2005年から現在まで刑務所や少年鑑別所などの矯正施設の心理技官等として、調査、指導、研究業務などに携わっている。公認心理師。臨床心理士。博士(学術)。 | ○   |                            |    |  |   |   |  |   |  |           |  |   |  |
| 授業内容との関連性<br>犯罪及び非行臨床において、犯罪心理学を日々実践している。  |   |                            |    |  |   |   |  |   |  |           |  |   |  |
| b. 企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目<br><small>学外講師の経歴・資格等</small>  |   |                            |    |  |   |   |  |   |  |           |  |   |  |
| 授業内容との関連性  |   |                            |    |  |   |   |  |   |  |           |  |   |  |
| c. 企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目<br><small>実習先・実習の目的</small>  |   |                            |    |  |   |   |  |   |  |           |  |   |  |

備考